2020年5月3日
復活節第4主日

家庭礼拝のための

聖書・牧会祈祷・メッセージ

【 聖 書 】ヨハネによる福音書9章1節～3節

9 [1] さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。[2] 弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」[3] イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。

【牧会祈祷】

命の源である神様。

この家を御言葉が語られる教会としてくださって、ありがとうございます。私たちがささげるこの礼拝を祝し、神様が生きて働いてくださいますように。こんなに長く教会で礼拝がささげられないのは、私たちにとって初めてのことです。私たちの教会だけでなく、世界にある多くの教会が同じ悲しみの中にあります。霊の糧を受けることができず、気づかないうちに魂が飢えている兄弟姉妹もいるはずです。どうか、この地を神様の憐れみで満たしてください。

新型コロナウイルスによって、社会の弱さがあらわになっています。経済的な打撃は大きく、仕事を突然打ち切られた人、住む場所がなくなった人、その相談先もない人が増えています。私たちにもどうすればよいのか分かりません。社会のゆがみをそのままにしていた罪をお赦しください。国や地域も混乱していますが、追い込まれている命を救うために最善の決断ができるよう導いてください。

私たちの友の中に、入院中の人、術後の療養をしている人がいます。あなたの助けが特に必要な時期です。寄り添い、支えていてください。この休暇中、家族に会うことができず、離ればなれになっている人がいます。家の中で嵐が過ぎ、神様の時が来るのを待っている人がいます。おひとりひとりの心を照らしていてください。

新しい一週間、私たちが神様の子として歩めますように。

このお祈りを主イエス・キリストの御名によって御前におささげいたします

アーメン。

私は病気のために短期間ですが、目が見えなくなり、視野欠損という後遺症はあるものの、再び見えるようになりました。ですからこの箇所は、自分の物語のように嬉しく感じられます。しかし、この箇所を読むたびに引っかかる点があるのです。ひとつは、目が見えない理由を「神の業がこの人に現れるため」と言う点です。病気や障がいは人を深く落ち込ませ、悩ませもします。それを「神の業が現れるため」と呼ぶのは配慮に欠けますし、神様が自分の都合で押しつけたようにも感じてしまいます。

もうひとつは、イエス様の奇跡によって目が見えるようになる点です。病気や障がいというものは克服して健康でなければいけないのだろうか、と考えてしまいます。しかし、イエス様は当然ながら、この男が抱える苦しみを軽く見ていたわけでも、健康でなければだめだと思っていたわけでもありません。誰もがこの男を人として扱わないなか、イエス様だけは最初からこの男をひとりの人として見てくださっていたのです。

弟子たちはこの男を見て「この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか」とイエス様に尋ねます。当時、病気は罪の結果だと考えられていたとはいえ、なんとも無神経な発言です。それは弟子たちだけでなく、後で出てくる彼を取り囲む人々にも共通しています。

おそらく周囲の人だけでなく、彼自身も病気の原因探しに捕らわれていたはずです。彼は生まれつき目が見えなかったので、自分が仕事も家庭も持てず、一生社会から拒絶されて生きていく理由は、両親の罪にあると考えていたでしょう。その理不尽さに苦しんでいたはずです。イエス様はそんな彼に「本人が罪をおかしたからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と断言されます。

イエス様の言う神の業とは病気が治るという奇跡ではありません。因果応報の世界から自由になり、神様が裁きではなく、愛と憐れみの方だと知ること。それが神の業です。

本当に見るべきものが見えていないのは、弟子たちであり、周囲の人々であったでしょう。人を人とも思わず、他者の不幸によって、自分たちの正しさを確認し続けている。闇の中で生きていたのはどちらでしょうか。現代を生きている私たちは病気を罪の結果だと思うことはありません。それでも原因探しと短絡的な理由づけはまるでくせのように残っています。それが自分も他者をも追い込んでしまうと分かっていながら。因果応報から自由になるということは、神様に期待するということです。私たちの目にマイナスとして映るできごとも、神様は祝福の源として用いることがおできになります。

目の見えなかった男に現れた神の業は、この一瞬で終わるものではありません。この男は生涯、イエス様との出会いを語り続け、同じように苦しむ人たちを励まし続けたでしょう。いらないと思い、また思われていた人生を神様の栄光を現す人生としてくださる。これこそ神様の業なのです。

たとえあなた自身が自分に価値を見いだせないときがきたとしても、神様があなたを必要とされています。自分に期待ができなくても、神様の働きに期待することができるのです。